

岸和田製鋼

# サイズ・鋼種を拡大

## 異形棒 JIS 追加取得

岸和田製鋼(本社)大阪府岸和田市、鞆子重孝社長はこのほど、異形棒鋼(鉄筋コンクリート用棒鋼)の鋼種でSD490、寸法(径)でD22、D25・D29・D32のJIS認証を追加取得した。こ

れまで同品種の生産は寸法でD10・D13の細物が主体で、D16・D19のベースの一部サイズだったが、ベースのサイズが拡大した。低迷する建設需要の中で、規格・サイズの充実を図ることで、セ

ネコンからの要望にきめ細かく対応を図る。同社はこれまでも、商品開発や製品のサイズ・規格×ニューの充実を推進してきた。昨年にはグループ企業の岸和田金属と共同で785N/平方ミリ級の高強度せん断補強筋用棒鋼「KH785」を開発、国土交通大臣認定を取得することもに、KH785を用いた溶接閉鎖型高強度せん断補強筋「スーパーフープ」の建築技術性

能証明を取得し、受注を進めている。異形棒鋼の鋼種・サイズの追加もこの戦略の一環。設備的には昨年10月に、圧延設備の中間から仕上げの改善工事を実施し、JISの追加申請をしている。

追加のJIS認証取得は、鋼種のSD490が1月25日付、寸法のD22・D25・D29・D32が1月19日付。これにより、同社のJIS認証(JIS-G3112)の範囲は、鋼種がSD295A・SD345・SD390・SD490の4つ、寸法(径)はD10・D13・D16・D19・D22・D25・D29・D32の8つとなる。

# 異形棒ベースサイズ生産 岸和田製鋼が参入

## JIS 認証を取得

関西の電機メーカー、岸和田製鋼(本社・大阪府岸和田市、社長・鞆子重孝氏)は2日、これまでD19までの細径サイズ主体だった異形棒鋼の生産サイズを、ベースサイズと呼ばれるD32まで拡大して生産開始すると発表した。

1月25日までに、D22・D25・D29・D32の4サイズと、鋼種についても従来のSD390までから、今回SD490のJIS認証をそれぞれ取得し、生産・販売態勢を確保した。

大阪地区では、最大径D51まで生産するベースサイズメーカーが中山鋼業1社で、同社と岡山・倉敷(水島)のダイワスチールなどが関西市場

## 関西市場地図、変化も

にベースサイズを供給している。一方で北陸地区などからの流入玉もあって市況混乱要因になってきた。

今回、地場メーカーの岸和田製鋼がベースサイズ市場に新規参入することで、関西市場におけるベースサイズなどの供給地図も大きく変わるものと見られ、市場関係者は「安値玉の流入回避など市況安定化に寄与してほしい」と期待を寄せている。

関西地区の異形棒鋼メーカーは共栄製鋼、中山鋼業、岸和田製鋼の3社と、倉敷のダイワスチール。市場規模は月8万トン。このうちベースサイズの比率は約半分。